

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171700103		
法人名	有限会社 めぐみ介護サービス		
事業所名	グループホームめぐみ		
所在地	岐阜県恵那市長島町中野1205番地の72		
自己評価作成日	平成22年 8月 3日	評価結果市町村受理日	平成23年2月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171700103&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成22年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

代表者は、介護職の経験があり、グループホームへの思いは深く、利用者様が楽しく喜んで頂ける事に情熱を込めており、職員も情熱を込めてケアにあたっています。
 設立当事から大切にしている「花あり、歌あり、笑いあり」をキャッチフレーズに、職員全員明るく楽しく利用者様に接しております。
 利用者様はより家庭に近い環境の中で、安心して穏やかな生活を送られています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは山間の集落の中にあり、利用者は防火訓練等に参加し、中学生たちに昔の遊びや暮らしについて話をする等、地域との交流を深めている。管理者・職員は利用者の生活を最優先に考え、一緒に泣き一緒に笑い明るく暮らせる支援を心掛けている。重度化した利用者には、医師や看護師と相談しながら、管理者から不安や負担を取り除く心のケアを受け、ホームで対応できるギリギリまで支援し、家族の安心につながっている。「共豊」の理念の下、心豊かに、いつも笑い声のある生活の実現に向け、管理者・職員が一丸となって情熱とチームワークで毎日のケアに取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は「共豊」である。職員は、その理念を共有しその人らしい生活の実現の為、実践につなげるよう心掛けている。	利用者・職員が共に豊かに暮らして行く事を理念としている。新人採用時に代表者から説明を受け、心豊かにいつも笑い声のある生活に向けた支援ができるよう心掛け、ミーティングや申し送りで話し合い共有を図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の行事、神事、防火訓練等にも出来るだけ参加している。 公民館周囲の草取りを利用者様と一緒にしたり、回覧板等も利用者様と職員が近隣に届けている。	自治会に加入し、防火訓練に参加している。中学生の職場体験を受け入れ、利用者が昔の遊びや暮らしの様子を話したり、交流を図っている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	体調を崩された独居老人の生活(安否確認、ゴミ出し)に少しでもお役に立つよう負担にならない程度の支援をしている。 回覧板等も代理で回すこともあり、声かけもやっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者からの積極的な意見(改善点等)を聞き入れ、可能な事柄であれば実行している。	行事報告を行い、問題点について話し合い、出席者から様々な情報提供や助言をもらいサービスの向上に活かしている。会議は定期的に開催されているが、家族の出席が少ない。	家族をはじめ、もっと多くの関係者が出席できる様、開催日・時間等工夫し、今後さらに有意義な会議となるよう努力されることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	『認知症患者を抱える家族の会』の窓口になっている。行政関係者とのコミュニケーションを取っている。地域包括主催の研修に参加し、現場業務に結び付けている。(認知症ケア)	事業所の現況や職員が講師研修を受けた認知症ケアの取り組みを積極的に行い、市担当者に伝え、連携を図る努力をしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	止むを得ない状況を除き、身体拘束をしないケアの理解と実践について、職員で話し合い1人1人の利用者様が抱えている根本的な不安や混乱等の要因を取り除くケアに努めている。	ベッド柵をとる努力はしたが、転落防止のために使用したことがある。家族にはなぜ必要なのかきちんと説明し理解も得られていた。管理者や職員はミーティングや申し送り時に話し合いをして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講演等の研修会があれば、積極的に参加している。職員1人1人が認識を持ちながら行動するよう職員会議等をもって定着するよう努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	講演等の研修会があれば、積極的に参加している。 必要性は、関係者で話し合いをし、必要とする人には、活用できるよう支援する。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様や家族の不安や疑問点は、遠慮する事無く伝えて貰えるよう心掛ける。(疑問点は聞いて頂く)また、十分な説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	グループホームの玄関には意見箱、苦情受付のポスターなどを貼り、いつでも聞き入る事ができるようにオープンにしている。 また、その意見を参考にして役立てている。	誰でも要望や意見が言いやすいようにしている。管理者はじめ職員は「苦情は宝」との思いを持ち、家族訪問時に意見を言ってもらえるよう積極的に話しかけて、運営に反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案の反映は、行われている。	代表者・管理者は、日常業務の中で声掛けし話を聞いている。ミーティングでも、意見を伝えつつ職員の意見を吸い上げる様にしている。又、新人職員には自分の思いを表せる時期を見計らい個人面談を行い意見を聞き、反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表の把握や職員との個人面談等も行い理解している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、情報の共有、資料の指導、助言等は、管理者が対応し職員も自発的に勉強している。 代表者も職員の育成に取り組み適切な管理、助言を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の支部会や介護相談員の説明会、勉強会、研修等に参加している。(レクリエーション等の話も聞いて刺激を受け参考になっている)		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人だけに面談を行い出来るだけ話をして頂くようにしている。(自室等、話しやすい場所) 常に声かけ等しながら安心して頂けるよう配慮している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や必要等があって家族に電話をした際、話を受け止めるように努力している。(話しやすい雰囲気を作っている)		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリー・健康診断書等により、必要と思われる事を示させて頂き対応している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという敬意を持ち接しさせて頂いている。また、昔の話を聞いたりして(生活習慣等)学ばせてもらい支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	些細な変化も電話連絡し、また、面会に来て頂くように心掛けている。 来所時には、話をするなどして、よりよい関係作りに努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の気持ちを尊重して、なるべく実現(面会の約束)出来るように馴染みの人との関係が続くよう声かけ等にて、つないでいく努力をしている。	ドライブの途中に自宅に花を探りに寄ったり、家族の協力を得て、昔一緒に働いていた知人を訪ねる等、馴染みの関係が途切れないように支援している。又、親戚・知人に手紙を書いたり、電話のやりとりを楽しめるよう支援している。利用者の近所の人にも来てもらっている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事やレクリエーション等、一緒の時間を共有でき、お互いがコミュニケーションが取れるよう努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	先方の必要とする限りそうさせて頂いている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を大切に出来る限り、希望や意向に沿えるよう努めている。	夜間のゆっくり話し合える時間を見計らい、趣味や暮らしの様子を聞き、思いの把握に努めている。又、やってみたい事のリクエストを募り、編み物・ビーズ作品・点字の勉強等楽しんでもらっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時やその後も(外泊した際)馴染みの物を持って来て頂くようにしている。 家族からも情報を得るよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員日誌・業務終了日誌・バイタルチェック表・夜勤日誌・水分摂取表・排泄表・体位交換表を元に全職員が現状を把握するように努めている。 また、それを計画書に反映するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・必要な関係者と話し合い、表現、アイデアを出して、それを元に介護計画を作成している。	家族の訪問時に介護計画について意見を聞き、ミーティングで、利用者の意向や職員から出た気付き・意見を取り入れ作成している。緊急時にはその都度見直し、家族に郵送して意見を書き込んでもらい現状に即した計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員日誌・業務終了日誌・夜勤日誌・水分摂取表・清潔表・排泄表・体位交換表・申し送りノートにて共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人のニーズに対して直ぐに対応できるように柔軟性を持って臨機応変に支援して行くように努めている。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や必要に応じて、地域のイベントの見学やボランティアの受け入れをして支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回往診を受けている。往診時のかかりつけ医に相談を行っている。 また、随時の診察も受けられるよう支援している。	協力医が月2回訪問診療と、緊急時24時間対応をしている。その利点から協力医に変わる利用者もあるが、かかりつけ医での受診を継続している利用者もある。受診した時は結果を協力医や職員に報告し情報の共有を図っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日々変化していく体調管理の情報や気づきを職員間で共有し協力医療機関や看護師への相談を経て、主治医の受信や看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際、家族と話し合い、入院期間中は職員が面会し、洗濯物を預かり必要物品を補充する。 代表管理者と職員が医療機関と連携を図っていく。退院は医師の指示で決定する。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、重度化や終末期は病院での医療を受けるように決めている。 しかしながら、終末期に至るまでホームの支援を受けられるのが現状である。	専門の医療が必要となった時は病院へ移るよう決めており、家族にも説明し、了解を得ている。重度化した時には協力医・看護師から指導を受けている。ホームで対応できるギリギリまでチームで支援している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	いつどんな時でも急変や事故発生に備えて全ての職員は、応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。(AEDの設置・説明) 結果、円滑に対応ができています。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策に備えて、定期的に避難消防訓練やマニュアルによる講習を行っている。	防災避難訓練・夜間避難訓練を実施した。その都度運営推進会議で報告し、問題点、課題について話し合っている。文書にて出火時の応援をお願いし自治会回覧や会合で伝えて頂き、協力は得られているが、より積極的な地域との連携が必要である。	運営推進会議を利用する等意見を重ね、更に地域の人々の参加が得られるよう、協力体制を築かれることを期待したい。

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時・排泄時は特に気を付けている。 電話の取次ぎ、FAX送受信後もプライバシーの侵害のないように気を付けている。	管理者は上から目線の言葉掛けにならないよう、言葉使いの大切さをいつも話している。 トイレはカーテンによりプライバシーの配慮がされた。居室の入り口には一部に透明ガラスが使われ、未だ対策が採られていない。	今一度利用者の立場からプライバシーを損ねないために、何か工夫できないか話し合ってもらいたい。(例えば、暖簾を掛けるなど)
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いつでも自由に本人が思いや希望を表したり、自己決定出来るように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の状況を把握しながら、1人1人のペースを大切に優先している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば本人の気に入った(馴染みのある)理容・美容院を選んで望む店に行けるように努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に好物のアンケートを取り、献立作りに役立てている。 その人の能力・体調に合わせて準備や後片付けをして頂いている。 また、食事での会話を楽しまれている。	利用者から献立のリクエストを聞き一緒に買い物に出かけている。職員が味付けや硬さ等、気付いた事を記録し、献立が工夫されている。又、楽しく食事ができる様、職員が良い雰囲気作りをしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病で糖分の摂取を考えなくてはいけない方もみえるので食事量を調整している。 水分摂取が必要量摂れてみえない方には、声かけを行っている。(職員日誌に水分摂取量の欄あり)		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日最低2回は歯磨きを行うようにしている。 (義歯のケア含む) 自分で出来ない方は、ケア用のスポンジ付スティックや歯磨きティッシュを使用している。		

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	脳に刺激が増すように、少しでも運動してもらうように声かけをしている。 排泄用品は、身体状況に合わせてその都度対応している。また、排泄パターンを知るためのチェック表を使用している。	排泄チェック表により一人ひとりの排泄パターンをつかみ、日中は布パンツを使用し、トイレ誘導し、自立に向けた支援をしている。夜間は安全面から長時間用パットを使用し、ポータブルトイレを利用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で食物繊維は、豊富に摂取している。 1日に適度な運動をして貰うように声かけをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員の勤務時間帯の中で入浴して頂いている。	一日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日でも可能である。入浴時間も午前・午後であったり、洗髪やかけ湯だけと利用者の希望にあわせ柔軟に対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は、昼寝等で休息して頂いている。 夜間の睡眠パターンは、夜勤者より引継ぎがある。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬における変化は、直ぐに気が付くようにしている。(血圧の変動等) 通じ薬等は、排便リズムをみて調整している。 何人もの職員で投薬に至るまで確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人にあった役割(作業)、楽しみごと等を考えている。その人にあった趣味(生活歴の中で)を生かして楽しんでもらえるよう工夫している。 趣味、やってみたい事のリクエストを聞き、可能であれば実行している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候ををみながら買い物の動向、近隣への散歩、季節ごとのドライブ、花や畑の手入れ等をして頂いている。	特別養護老人ホームの夏祭や、小規模多機能型居宅介護の感謝祭に浴衣を着て出かけている。 職員の運転する車でドライブを楽しんだり、天気の良い日にはホームの畑で野菜の手入れや草むしりを手伝うこともある。ホームの近くを日常的に散歩している利用者もいる。	

グループホーム めぐみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族がお金の管理をしてみえる以上は、グループホームとして管理の限界がありますが、管理能力のある利用者様は所持してもらっている。(外出時の食事代等)金銭については、入居時家族と話し合いがされている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	なるべく自由に手紙や電話のやり取りをして頂いているが、手紙等は、一気に集中して何枚も書く利用者様もみえるので、加減して書くように声かけをしている。(職員側で葉書を預かり必要時にお渡ししている)		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	古民家の空間を生かしている。 玄関からの眩しい光が入る場合は、居間の戸を閉めたり、自室に眩しい光が入る場合も夏季は、すだれやよしずで遮っている。	居間に置いたソファの位置を変えることで雰囲気を変えたり、壁に中学生と一緒に作った貼り絵や千切り絵を飾り、風鈴で季節感を演出している。庭や畑が整備され、玄関先にベンチを置き天気の良い日には快適にかつ自由に過ごせる場所としている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・台所・事務所等居心地の良い場所で過ごしてもらう。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を使用して頂いている。 レクリエーションで作った手作りの物を自室の壁等に飾ってもらっている。	居室には家族の写真や孫が書いた習字の作品、中学生と一緒に作った紙粘土の置物が飾られている。タンスやベッドは思い思いの場所に置かれ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人のわかる力をなるべく生かして、利用者様に対する言葉かけには十分注意し、安心して自立しながら暮らせるように工夫している。		